

謹賀新春



新年のごあいさつ

病院長 南 敏明

あけましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症に終始した一年となりました。本院は厳重な管理を徹底して、院内感染やクラスター感染は発生しておりません。本年は、withコロナとなります。ステイホームでコロナを始めとする感染症は減少する一方、多少の症状がある方、行動範囲が減少して症状が隠れている方が多くおられるため、症状が出現した時には非常に重篤化しています。緊急事態宣言が解除された後、重篤な症状の患者が多くなりました。少しでも症状がある場合は無理をされずにかかりつけ医に相談していただき、必要であれば大阪医科大学病院にご紹介を賜ればと思います。2021年1月11日(成人の日)は、通常通り開院いたします。少しでも気になることがあれば、休日ですのご利用しやすいかと存じます。

コロナ禍ではありますが、本院における新たな取り組みとして、2020年4月から厚生労働省事業の「妊娠と薬情報センター」の拠点病院となりました。妊娠・授乳中の服薬に関する情報機関として専門の医師・薬剤師がご相談に対応しています。5月からは大動脈解離、大動脈瘤、動脈瘤の患者さんの救命のために大動脈ホットラインを開設致しました(24時間365日)。かかりつけの先生が心臓血管

外科医師に直接ご相談頂くことで、より即時性をもった対応が可能となっております。6月からはBNCT(ホウ素中性子捕捉療法)が切除不能局所進行または再発頭頸部腫瘍に対して保険診療が開始されました。また、今後脳神経膠芽腫も保険適用となる見込みです。9月にはNewsweek誌による「World's Best Specialized Hospitals 2021」におけるOncology部門において、本院がTOP 200にランクインしております。国内大学病院では12大学病院がランキングに入っていますが、私立大学病院で入っているのは、慶應義塾大学病院に続き、本院のみです。

将来に向けた明るい話題は、2027年に迎える大阪医科大学創立100周年記念事業、病院新本館建築です。病院新本館建築は「超スマート医療を推進する大学病院」を基本方針に掲げており、2020年8月7日に地鎮祭を行ったのち、病院新本館A棟の工事が順調に進行しているところです。

病院新本館は、「バイオフィリア」をコンセプトにした建築で、人と自然が触れ合うことで健康になれるという考え方を基に、インテリアに自然素材を多用し、ヒーリングアートなども取り入れる予定です。病院新本館A棟の特徴は地下1階地上12階建てで、①大阪府三島救命救急センターの三次救急機能が移譲されます。②最上階12階に先進的な「がん」に特化したがん医療総合センター(化学療法センター・緩和ケアセンター・がん相談支援センター)などを配置致します。③病棟リハが有効な循環器内科、整形外科、脳神経外科の病棟にリハビリテーション室を設置致します。④外来検査、治療セクションを集約化致します。⑤外来にAIやロボットの導入を検討しております。

病院新本館A棟完成の2022年、B棟完成の2025年の医療環境も予想しながら設計を行っており、次世代へ夢のある病院建築、100周年事業への橋渡しの一翼を担えたらと考えております。

本年も何卒よろしく願い申し上げます。



コロナ禍の中 医療者としての 真価が問われる年

看護部長 中山 サツキ

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症の世界的流行、いわゆる「コロナ禍」に明け暮れた1年間でした。皆さまにおかれましては、感染対策のために日常生活や働き方に制限を余儀なくされた1年であったかと思えます。当院におきましても、クラスター発生を未然に防ぐために、外来における電話診療等の診療方法の変更や入院中の面会制限等、大変ご不便をおかけ致しました。皆さまのご支援・ご協力のおかげで無事に新年を迎えることが出来ましたことに、改めまして心から感謝申し上げます。

このような中で迎える新年ですが、今年、令和3年は「丑(うし)」年です。「丑」の

字は、本来「からむ」という意味で、種の中で生じた芽が外に出ることが出来ない状態を表しているそうです。ワクチンや治療薬の開発など明るい報せがありつつも、コロナ禍を払拭するまでに至っていない現在の状況にくしくも符合しています。芽生えた希望を大切に、1日も早く感染が終息する日が訪れることを願うばかりです。

さて、当院は特定機能病院に認定されており、高度・先進医療を提供することを使命としています。その役割を果たすためには、より専門性の高い知識や技術を有する看護師の存在は不可欠です。当院では、大学院を修了した「専門看護師」や特定の看護分野において熟練した知識と技術を有する「認定看護師」が病棟や看護外来でその専門性を発揮しています。コロナ禍の中でも本来期待された病院機能を損なうことなく、多くの皆さまにより専門的な医療・看護が提供できるよう、看護師の人材育成もさらに強化して参りたいと考えております。

新型コロナウイルス感染症の流行はいまだ収まってはおらず、今後の状況もまったく予断を許しません。職員一同、医療者としての真価が問われる年になるという心構えで臨んで参りたいと思います。引き続き、安全で質の高い医療を提供するために、患者さんの目線に立ち、おひとりお一人の価値観を大切にしながら日々の医療・看護に努めて参る所存でございます。

実りある一年となりますよう、本年も何卒よろしく願い申し上げます。

市民公開講座

2020年11月7日開催中止分

「心房細動という名の不整脈」

内科学Ⅲ教室 講師(准) 宮村 昌利



心房細動とは？

近年世界中で不整脈の患者、特に心房細動の患者が増えています。不整脈とは脈拍のリズムが異常になる状態で、心房細動はその一つです。心房細動によって動悸やしんどさなどを感じることもありますが、全く症状がないこともあります。

何か悪いことがある？

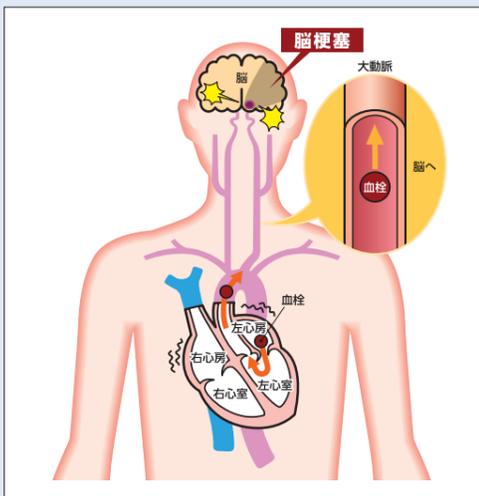
心房細動がすぐに命に関わることは少ないですが、心房細動が続くことで心臓のポンプ機能が低下して心不全になったり、心房細動により心臓内の血流が悪くなり血栓(血の塊)ができやすくなったりします。この血栓が脳動脈に流れ着くと脳梗塞を起こします。心臓から飛んできた血栓による脳梗塞は半身不随や寝たきりになるなど重篤な脳梗塞になる確率が高いことが判明しています。

治療法は？

脳梗塞の予防としてはアスピリンなどの抗血小板薬ではなく、ワーファリン、イグザレルト、エリキュース、リクシアナ、ダビガトランといった抗凝固薬の服用が望ましいです。また、動悸などの症状が強い方には抗不整脈薬を服用していただくことで症状の緩和、発作回数の軽減を図ることもあります。そして、時折心房細動になる発作性心房細動の方へは症状の改善を、ずっと心房細動となっている持続性心房細動の方へは心不全の回避を目的として、カテーテルアブレーション治療が当院も含めて日本中で多く行われています。

最後に

心房細動に早く気づき脳梗塞や心不全にならないように、血圧測定時には脈のリズムも確認したり、年1回は心電図検査を受けたりして健康寿命の延伸に努めましょう。



「心房細動週間ウェブサイトより」

2020年12月19日開催中止分

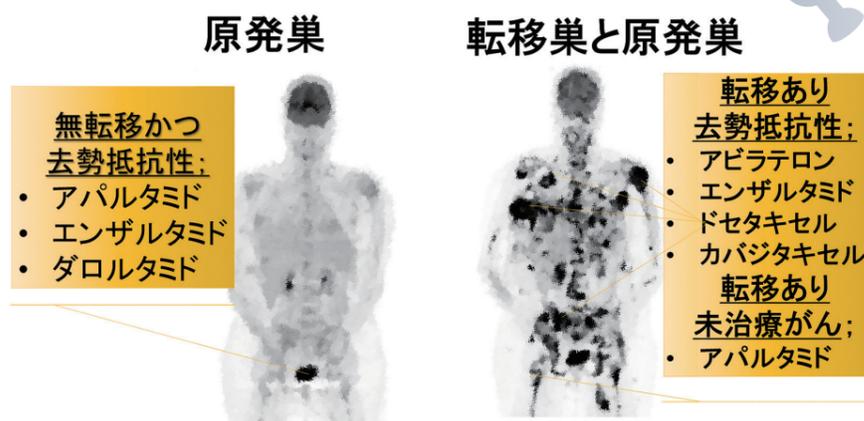
「進行性前立腺がんとその治療の変遷」

泌尿器科学教室 准教授 稲元 輝生



前立腺がんは男性ホルモンの依存性で発育するため、この経路を断ち切る治療が行われます。転移性去勢抵抗性前立腺がんとは、今まで転移のある前立腺がんをホルモン治療薬で治そうとしても、数年でテストステロンレベルがすごく低い状態であるにもかかわらず、疾患が進行する状態を指します。これは、血清前立腺特異抗原(PSA)レベルの継続的な上昇、既存の疾患の進行、または新しい転移の出現など、さまざまな形で現れます。転移性去勢抵抗性前立腺がんは、生存期間の中央値が約3年と短いことが予想されます。そのため何年にもわたって、治療のホルモン感受性段階を延長するための努力がなされてきました。ビカルタミドなどの第1世代の抗アンドロゲンをLH-RH(脳の視床下部から分泌される性腺刺激ホルモン放出ホルモン)の類似体や拮抗薬に追加する方法は、ホルモン感受性期を延長するために使われてきた戦略でした。この組み合わせは、複合アンドロゲン遮断療法と呼ばれることもあります。ただし、この方法は、骨折リスクや貧血・男性力の低下といった副作用の問題もあります。最近では、様々な前立腺がんに対する新世代の治療薬が登場しており国内外の学会において専門家からの積極的な使用経験が議論されています(下図1)。

図 1



今までの治療は転移性去勢抵抗性前立腺がんの治療を行うことが中心でした。しかし、去勢抵抗性前立腺がんの中には今までの画像診断では転移がみつからないまま診断されるものもあります。これらの非転移性去勢抵抗性前立腺がんの3割は2年で転移することがわかっていて、発見と同時に有効な治療薬への切り替えが推奨されています。使用される薬剤としてアパルタミド・エンザルタミド・ダロルタミドなどが挙げられます。これらの薬剤は患者さんの生存を延長することが国際共同臨床試験で証明されているので高い推奨度で使用が勧められます。より最近の治療の風潮としては、より早期に、歴史的に使用されてきた薬剤よりも、新規分子標的治療を最初の治療薬として選択するメリットが徐々に知られるようになっていきます。より早期というのは転移を有するホルモン感受性前立腺癌のことを言います。この概念はここ数年で、にわか話に上るようになっていきます。研究者ごとにより転移性未治療前立腺癌と呼ばれることもありますが概ね同様の病態を指します。これらの分子標的治療は効果があるとされる一方で、特徴のある副作用がありますので処方医とよく相談して内服の決定を行ってください。

文献：1) 国立がん研究センターがん対策情報センター、2015年のがん統計予測；http://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/stat/short_pred.html : accessed on July 14, 2016.

病院名称が「大阪医科薬科大学病院」に変更となります。

お知らせ



2021年4月
大阪医科大学と大阪薬科大学は
ひとつに。

大阪医科薬科大学
Osaka Medical and Pharmaceutical University

誕生

2021(令和3)年4月に大阪医科大学と大阪薬科大学が大学統合し、大阪医科薬科大学となることに伴い、病院の名称が「大阪医科薬科大学病院」に変更となりますので、お知らせ申し上げます。

TOPICS

令和2年度薬事関係等功労者 知事表彰受賞しました。

令和2年度 薬事関係等功労者知事表彰において、病院・診療所の部門で当院薬剤部の西原雅美課長と鈴木薫主幹の2名が、永年にわたり薬事衛生業務に従事した功績に対して受賞しました。

